



『震度7』

松岡達英／文・絵
ポプラ社

一瞬ですべてが変わってしまいました。2004年に発生した新潟県中越地震を絵本作家でもある松岡達英氏が独自の視点で記録しました。地震の恐さだけでなく、人々の絆、温かさ、強さなど大切なことを教えてくれる一冊です。



『精霊の守り人(「守り人」シリーズ)』

上橋菜穂子／作 二木真希子／絵
偕成社

異世界からこちらの世界を見守る精霊は100年に一度人間に宿って誕生するという。皇子チャグムは精霊を宿したため、それを隠そうとする皇帝と異世界の化物ラルンダに命を狙われる。チャグムを守るべく雇われた短槍使いバルサの活躍を描きます。



『千の風になって』

新井 満／文 佐竹美保／絵
理論社

世界各地で、大切な人を失った悲しみの中、読み継がれてきた一篇の詩「千の風になって」。この詩をもとに絵本が生まれました。アメリカ先住民族の少年ウパシと少女レイラを主人公に、愛と死、そして死の悲しみを乗り越え生きる力を描きます。



『素数ゼミの謎』

吉村 仁／著 石森愛彦／絵
文藝春秋

素数ゼミとはアメリカに13年や17年という素数の年ごとに大発生する変なセミのこと。このセミの謎を、生物の歴史や数学を用いて探っていきます。ユーモアあふれる構成で、生物の奥深さに興味津々！